

# あ お だ け

㊦かるく ㊩いつも ㊨きに ㊧づける

竹山小学校創立50周年 令和3年9月1日



## 9月号

分散登校に  
なってしまっ  
たけれど、みん  
なが学校に  
くるのを待っ  
ていたよ!

2021年の夏から学んだこと・感じたこと

のびのこも、石けん手洗いと  
換気がんばっているよ!



校長 大原 敦子



猛暑・大雨・新型コロナと厳しい状況が続いた夏休みでしたが、子どもたちが育てているゴーヤ・稲・すいか・夏野菜は、いつもと変わらずすくすくと育ちました。その姿にとっても癒されています。昨年とはまた異なるコロナ禍の夏。子どもたちはどのように過ごし、何を感じたのでしょうか。



賛否両論ありましたが、1年延期された東京2020オリンピック・パラリンピックが行われた夏でした。私は家にずっといたので、テレビで様々な競技を観戦しました。開会式の「ピクトグラム」。改めて「言葉を超えて相手に伝えられる」表現としてのすばらしさを感じました。緑区出身の110m男子ハードル、泉谷選手。私の母の幼馴染みのお孫さん、野球の森下投手。友達が同学年担当していたパラリンピック車いすバスケの古澤選手。「人」を知ることが観戦きっかけとなり興味をもち、より近く感じた体験でした。たまたま見えて、そこから楽しさを感じたものもあります。スケートボード関係の競技では、メダルを争っている中でも相手の技や頑張りを称える姿に感動し、女子バスケでは、私と同じ身長町の町田選手が、世界の強豪選手を相手に繰り出す多彩なプレーに興奮しました。同じ興味や感動でも入り口はいろいろ。自分のこれらの体験から、子どもたちにとっての「主体的な学び」も、きっと様々な形があるのだと感じた夏でした。

「8月27日に元気に会いましょう」と子どもたちを夏休みに送り出しましたが、臨時休業・分散登校と、全員がそろってスタートすることが叶わない学校再開となりました。保護者の皆様にも、短期間に様々なご無理をお願いすることとなってしまう、心苦しい限りです。ご理解ご協力に心より御礼申し上げます。そして、感染急拡大の状況での登校にご不安もあることと思います。気を付けていても自分が無症状で感染していたらと、心配になることもあります。だからこそ「感染しない・させない・持ち込まない」ために、「どう行動すればよいか」「今できることは何か」などを大人も子どもも一人ひとりが考えて行動する経験・この夏の学びが、子どもたちの未来で大きな生きる力になると信じています。そして学校として、稲や夏野菜のように「いつもと変わらない安心感」を子どもたちが得られるように、職員一同気を引き締めて学校運営をいたします。今月もよろしく願いいたします。